

よりによって…

インド・ビハール州で芸術祭!?



インドの土と水と空気、子どもたちと……
持続可能な国際支援を実現した

「ウォールアートフェスティバル・
イン・ニランジャンスクール2010」
凱旋プレスリリース

“HAMARA TYOUHAR !”

हमारा त्यौहार !

ウォールアート・プロジェクト
(浜尾和徳・おおくにあきこ)

1 HAMARA TYOUHAR! हमारा त्यौहार! (ハマラー テヨハール)

大切にしたのは、「われらのフェス！」ということ

インドを知る多くの人が思う。「よりによって、ビハール州で芸術祭?!」と。

IT 大国と言われるインド。ビハール州は、格差の大きなインドの中で最貧困州で、識字率が 50%ほどという統計結果も出ている。とくに農村部では、教育環境もインフラも公的な整備から大きく取り残されているのが現状です。主婦たちは、ゴーバルという牛糞の燃料を使って土のかまどで煮炊きをしていて……大地に根ざして働く女性たちの姿はことのほか力強く印象的でした。そんなビハールのスジャータ村にある小さな私立の小学校、ニランジャンスクールを拠点に、2 月の 3 日間だけ繰り広げられた非営利の芸術祭「ウォールアートフェスティバル・イン・ニランジャンスクール」。

“HAMARA TYOUHAR! हमारा त्यौहार! (ハマラー テヨハール)” は、ヒンディー語で「われらのフェス！」という意味。「ウォールアートフェスティバル (WAF) ・イン・ニランジャンスクール」は、インド、ビハール州で行われた、そこで暮らす人々による手作りのフェス。準備段階からスジャータ村など近隣のインド人らが色濃く関わることで、茶色い大地の芸術祭を成功に導きました。これは、持続可能な国際支援の、ハードではなく、ソフトな支援の、ひとつのモデルケースでもあります。

2 「WAF・イン・ニランジャンスクール」について

日本の学生 50 人が支援のためアルバイト代で校舎をプレゼントしたニランジャンスクール。その学校の壁が利用できることをファシリテイトしようと、日本人ボランティアによってスタートしたのがフェスティバルの始まりでした。

日本から参加したアーティストは浅井裕介。インドへの特別な思いを携え、スジャータ村で採取した 7 種の土と牛糞、インドの水を絵の具に、10 日ほどかけて教室の壁と天井一面に泥絵を描きました。彼の制作を助けたのは、ニランジャンスクールの子どもたち。80 人余りの子どもたちが、夢を思い描きながら壁に“誓いの手形”を捺し、その手形が壁画の登場人物になっていきました。(Photo ©Junai Nakagawa)



制作中、子どもたちとのコラボレーションを誰よりも楽しんだのは作家自身。泥絵の手形ワークショップに加え、学校の壁面を飾るマスキングボード(写真右)のワークショップも行ないました。



浅井裕介 http://www.arataniurano.com/artists/asai_yusuke/

(Photo © Junai Nakagawa)

一方、インド人アーティストとして参加したのは、公園などでのコミュニティアートで知られるスリージャタ・ロイ。病気をおして参加。会期中、公開制作の形で、農村風景と都会の風景の対比を力強くアクリル絵の具で描き上げました。 <http://parkdpuri.blogspot.com/2009/01/as-artist-with-particular-interest-in.html>



(photo by Akiko Ookuni)

3 「WAF・イン・ニランジャナスクール」の3つの目的

- ① ビハールの子どもたちに、アートの力を伝えたい！
- ② フェスを見学に来てくれる人、取材に来てくれたメディアを通じて、世界中の人たちに、ビハールの子どもたち、村びとたち、ひとりひとりが、この地でこんなふうに住んでいることに思いを馳せてほしい！
フェスで村が活性化することで、教育システムやインフラを自然な形で整備することにつなげたい。
- ③ 3年目以降は現地インド人主体でフェスを運営し、持続していくことを視野に入れていく。

4 「WAF2010」のサプライズ

日印2つのダイナミックな壁画のほか、世界の子どもたちの絵の展示会をスライドショーで見せるエキシビジョンルームも特設。さらに、“木を植える男” SEEDMAN こと中溪宏一 (<http://www.seedman333.org/>) を迎え、このフェスを見守るボダイジュの苗木を、第二会場のダウンムリ地区に植えてもらいました。

さらに、箏とサクソで自作の曲を演奏するミュージシャン「JAQWA/寂和」 (<http://www.jaquwa.jp/>) によるコンサートも実現。星空の下、インドのシタール奏者とのセッションも素晴らしく、浅井裕介も飛び入り参加。背後の壁に、ソーラーライトを灯しながら即興泥絵を描き、観客を酔わせました。

5 「WAF2010」の成果

2010年2月20、21、22日の3日間の開催中に約4000人の来場者を記録。ニランジャナスクールの生徒(300人)の家族はもちろん、ガヤの市街地からは車でやってくる家族連れ、10キロ離れた村から、はだしで歩いてきた子どもたち、赤ちゃんを抱えたお母さんもやってきました。22日月曜日には、他の村の公立学校からも学校を通じてやってきましたり、デリー在住の日本人も。また、日本からは計20名のボランティアが、準備期間中から、はるばる手伝いに駆けつけてくれました。

新聞としては、日本の朝日新聞西日本版、インドの「AAJ」「DAINIK JAGRAN」「RASTASAHARA」「PRABHAT KHABAR」、テレビは「アージタク」など3局にとりあげられました



アンケートの習慣のないインドながら、地元スカウトの協力で、会場出口で回収したアンケートでは、「大変よかった」が472票、「よかった」が28票、「よくなかった」は0票という結果でした。

6 記事、取材のお申し込み・ご質問は以下へ

来年の開催日は2月19、20、21日。来年への取り組みを視野に入れながら、芸術的価値の高いこのフェスティバルのことを伝えたいと思います。写真家・中川十内、ライター・おおくにあきこ、コーディネーター・浜尾和徳らがスタッフとして、写真原稿、記事原稿を提供します。(御社規定の原稿料をお願いします)。

作家・浅井裕介へのインタビューも受け付けます。

e-mail akiko@blue-bear.co.jp TEL090-2328-0230 FAX03-5314-7636

ウォールアート・プロジェクト 代表 おおくにあきこ

Official web site <http://wafes.net/> Official blog http://blog.livedoor.jp/wall_art/